

## 令和8年度 1年次「史学導入演習Ⅱ」事前登録

1年次後期開講の「史学導入演習Ⅱ」（必修科目）は、少人数で行われる授業です。その履修は、希望優先方式による事前登録制をとっています。今回は以下の登録期間・方法によって希望を受け付けます。今後の参考にしますので、その授業を選択する理由、現在関心を持っている研究テーマを、それぞれ400字以内で具体的に記入して下さい。

### 「史学導入演習Ⅱ」事前登録の概要

○登録期間：7月4日（土）14時30分～7月11日（土）23時59分 （厳守）

○登録方法：Microsoft Forms

○登録内容：①第1希望1つ、第2希望3つ選択

②第1希望の選択理由（全体で400字以内）

③現在関心を持っている研究テーマ（400字以内）

＜史学導入演習Ⅱ登録フォーム＞

○結果発表：8月下旬（予定）

<https://forms.cloud.microsoft/r/BMiUtGfJs9>



### 【注意事項】

史学科で開講される必修科目「史学導入演習Ⅱ」（1年後期）・「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（2年前後期）は、歴史学における研究方法や史資料の扱い方の基礎を広く学ぶために開かれています。これらの履修をとおして、今後のコース選択、3・4年次のゼミの選択、研究テーマ選びの参考にしてください。

同一コース・分野・時代の授業を履修することもできます。しかし、3・4年次のゼミは、成績（GPA）や研究内容によって希望するゼミに入れない場合もあります。また、コース・分野によっては、この機会に他の演習・講義の履修をおすすめしていることもあります。このガイダンス資料だけでなく、ガイダンス時の教員からの説明をよく聞いたうえで、希望を提出してください。

登録期限内に履修希望を提出しなかった場合は、後期の履修登録期間に二次登録期間を設けますが、希望に添えないことがありますので十分注意してください。

## 史学導入演習Ⅱの登録方法

- ① K-SMAPYⅡ経由で配信されたURLにアクセスするか、QRコードをスキャンする  
史学導入演習Ⅱ登録フォーム



<https://forms.cloud.microsoft/r/BMiUtGfJs9>

- ② 大学より付与されているメールアドレス・パスワードを入力しアクセスする  
※既にログイン状態の場合、この画面は表示されません

メールアドレス : 学科記号 (史学科 : b) + 学籍番号 6 桁@kokugakuin. ac. jp

パスワード : K-SMAPYⅡログイン時パスワードと同じ

- ③ 下記の画面より必要事項を入力する

④ 下記選択肢より第1希望を1つ・第2希望を3つ選択する

4. 「史学導入演習Ⅱ」の第1希望を選択してください。\*

- 日本史・古代史 山崎雅穂
- 日本史・中世史 矢部健太郎
- 日本史・中世史 比企貴之
- 日本史・近世史 榎本博
- 日本史・近現代史 種福秀司
- 日本史・近現代史 高橋亮一
- 外国史学・西洋史 神長英輔
- 外国史学・東洋史 遠水大
- 考古学 阿部常樹
- 考古学 仲田大人
- 地域文化と景観 三河雅弘
- 地域文化と景観 島山聡

⑤ 第1希望の選択理由、現在関心を持っている研究テーマを400字程度で記入

6. 第1希望の選択理由を簡潔に記入してください。(400字以内)\*

回答を入力してください

7. 現在関心を持っている研究テーマについて記入してください。(400字以内)\*

参考文献などを適宜提示してください。

回答を入力してください

⑥ 「自分の回答についての確認メールを受け取る」にチェックを入れ、「送信」を押して完了

自分の回答についての確認メールを受け取る

送信

※登録時の注意事項※

- ・ 必ずご自身のアカウントでログインのうえ回答してください
- ・ 期間中は何度でも回答できません(最新の回答を適用します)
- ・ 自身の回答内容をスクリーンショット等で手元に控えておいてください
- ・ 同じ教員を複数回希望しないでください

システムの都合上、第1希望・第2希望で同じ教員を選択できますが、必ず異なる教員を選択してください(同一教員が含まれていると希望に添えません)

## 令和8年度 史学導入演習Ⅱ シラバス

時代／分野		担当 教員	授業テーマ (シラバスより)	授業内容 (シラバスより)
日 本 史	古代史	山崎 雅稔	平安時代の研究と史資料	<p>日本古代史にかんする理解を深めるために、演習形式で発表を通じて平安時代の研究に接近します。具体的には、木村茂光著『「国風文化」の時代』（読みなおす日本史シリーズ、吉川弘文館、2024年）を輪読しながら、平安時代の政治・文化・社会をめぐる論点の把握につとめます。あわせて、史料の読み方や語句の調べ方などの基礎を修得するとともに、史料解釈のための分析・批判の方法、研究史をふまえた考察のしかたを学びます。</p> <p>平安時代は古代から中世への移行期にあたります。古代史に関心のある人はもちろん、中世前期に関心をもつ人も積極的に履修してください。他の時代・地域に関心のある人も歓迎します。</p>
	中世史	矢部 健太郎	戦国・織豊期の古文書と古記録	<p>これまでの基礎的な演習で得た様々な知識をもとに、戦国・織豊期に時期を限定して史料読解の演習を行う。対象とする素材は、主に武家社会においてやり取りされた古文書とする予定である。ただし、中世社会の復元のためには、多種多様な史料に関する理解が必要である。よって、公家衆や寺社が書き残した古記録などの史料の扱い方に関しても、十分に時間を割いて取り組んでいきたい。</p>
		比企 貴之	中世前期の神社・神祇信仰関連史料を読む	<p>対面授業として実施する。この演習では院政期から南北朝期に至る、いわゆる中世前期を主たる対象とする。取り上げる史料は、中世前期の寺院や神社の動向や当時の信仰のありようを直接に示すような史料を用いる。演習をつうじて①史料を読む力、②辞書・辞典を活用した調べ方、③参考文献の探し方、④口頭発表と報告レジュメの作り方の修得が第一義だが、中世前期の寺院や神社の動向にかかわる史料の読解を通じて、そこからかえって当時の政治や社会について考える“宗教社会史”的な関心から中世という時代を考える機会として欲しい。</p> <p>演習のスタイルを採るので、授業は報告とその報告に対する討論によって進行する。報告担当者以外の学生も、必ず予習として史料の読み方・語句の意味などを調べたうえで授業にのぞむこと。</p>
	近世史	榎本 博	日本近世史研究入門	<p>日本近世史を学ぶための入門的な演習である。授業の前半は、日本近世史を学ぶために必要な時代区分などの基礎知識、史料の読み方や研究史などの研究方法について学び、後半は、それらをもとに各自選択したテーマについての発表と討論をおこなう。</p>
	近現代史	種稻 秀司	日本近現代史入門	<p>日本近現代史を学ぶ入門のための演習を行ないます。近現代史の特徴は史料が豊富なことですが、そこには研究に使うべきものと、そうでないもの。公文書や書簡などの私文書、さらに新聞、雑誌、著書と様々な種類があります。今後、学習を進めて行くにあたって、史資料の特徴を知った上で、まずは読みやすい活字化された史料を読んでいます。</p>

## 令和8年度 史学導入演習Ⅱ シラバス

時代／分野		担当 教員	授業テーマ (シラバスより)	授業内容(シラバスより)
日 本 史	近現代史	高橋 亮一	日本近現代史入門	<p>本授業は、日本近現代史を学ぶための第一歩となる演習授業(対面形式)です。日本近現代史は、ぼう大な数の史料と向き合うことはもちろん、ほかの国の歴史や経済、法律なども知ったうえで研究することも求められています。半期の授業を通して、日本近現代史の史料に向き合うための基礎的なスキル(文献の調べ方、史料の読み方)とともに、これから先の研究活動に取り組むときの姿勢を身に付けてもらいたい。</p> <p>演習課題は下記4点を予定している。詳細については第1回の授業で説明するが、受講者の関心にできる限り沿えるよう、いくつかの候補を提示する。</p> <p>①文献講読：研究の状況や論点整理・内容に関する討議 ②史料講読：活字化された史料の音読・内容紹介・考察および討議 ③課題図書に関するレポート：歴史学研究に関する書籍1冊を書評(代替授業欄を参照) ④文献目録の編成：書誌情報の整理に関する演習と実践</p>
外 国 史 学	西洋史	神長 英輔	西洋近現代史に関する専門的な研究方法を学ぶ	<p>参加者は教科書を用いて自らの関心に応じて西洋近現代史の主要な論点を理解し、史料研究の方法、関係する理論、近年の研究動向などを学ぶ。その上で、西洋近現代史のさまざまな論点の中から自らが関心を持つ地域と時期を探し、卒業論文の構想を練る。</p> <p>研究報告では自分で選んだ学術論文を手がかりにして自分で問いを立て、自分で入手した史料を読み解いてその問いに答えを出す。複数回の研究報告の機会を使って各自の研究を段階的に進める。</p> <p>授業の主題は概ね19世紀以降の西洋史全般だが、中東欧、北欧、中央ユーラシアを含む旧ソ連地域の歴史や、東北アジアと欧米の関係史に関心のある履修者の報告については対象の時代を問わない。</p> <p>西洋近現代史を主題とした指定様式での研究報告、報告前のディスカッション・ペーパーの提出を義務とする。</p>
外 国 史 学	東洋史	速水 大	東洋前近代史入門—『通典』巻185 边防典1 東夷およびその典拠史料の講読 倭条を中心に	<p>歴史学を学ぶ上で史料の読解と先行研究の理解は重要な柱である。中国史・朝鮮史や日本古代史の場合、漢文で書かれた史料が主な研究の対象となる。そこで本演習では、漢文資料を読み解く力を養うために『通典』巻185 边防典1 倭条を中心に「東夷」に関わる部分を講読する。その際、史料の成立を検討するため、『通典』同条に影響を与えた『三国志』魏書東夷伝倭人条などと比較しながら講読する。</p> <p>本授業では、漢文史料の読み方の基本を習得するため、『北宋版通典』を底本に各種の翻訳本を参照しながら読み進めることにする。</p> <p>倭国伝の読解を通して、中国、日本双方の視点から多角的に歴史をとらえる力を養いたい。</p>

## 令和8年度 史学導入演習Ⅱ シラバス

時代／分野		担当 教員	授業テーマ (シラバスより)	授業内容 (シラバスより)
考古学	考古学	阿部 常樹	考古学の研究法を学ぶ	<p>本授業では、考古学の研究方法や発表の仕方などを学ぶことを中心に展開する。主に貝塚と関連する事象について取り上げる。貝塚は、食物残渣をはじめ当時の日常生活を反映するゴミをもっとも豊富に含んでいる遺構である。しかし、そこに含まれている情報を引き出すためには、発掘調査方法や資料の抽出方法、その後の抽出された資料の整理・分析方法などの考古学的方法を知らなくては行えない。そこで、主に貝塚を取り上げることで、考古学の基礎的な方法論を学んでいくことを目的にする。詳細には、貝塚の分析から、1. 昔の人の特に食生活の復元方法を学ぶこと、2. 遺跡や遺構に堆積する覆土の形成過程の復元方法を学ぶことを目的の中心に据えたい。また、生徒各人に博物館の展示を基に興味をもった物質資料について現在の考古学的研究成果をふまえて調べる、もしくは遺跡についてその遺跡の歴史的・考古学的な意味・重要性をふまえて調べ、発表をしてもらう。</p>
考古学	考古学	仲田 大人	石器研究入門	<p>考古学は物（モノ）をあつかってヒトの歴史（コト）を復元していく学問です。授業では石器の見方の初歩を学びます。考古資料のなかで石器はもっとも古くから人類が作ってきた道具です。考古学ではその石器をどうあつかい、歴史を復元していくのでしょうか。授業では実際に石器にふれてもらい、そこからどんな情報を読みとっていくのか、一緒に考えます。モノの観察の面白さとむずかしさ、それを基礎として語るコトについて理解を深めていきましょう。</p>

## 令和8年度 史学導入演習Ⅱ シラバス

時代／分野		担当 教員	授業テーマ (シラバスより)	授業内容 (シラバスより)
地域 文化 と 景 観	地域文化と景観	三河 雅弘	地形図・空中写真から歴史を読む	<p>地形図や空中写真には、人々が土地に刻んできた歴史の痕跡を確認することができる。例えば、古代から現在にいたるまでの各時代における土地の区画、道路などの痕跡、集落跡、城郭跡などである。</p> <p>本授業では、地形図や空中写真などを用いた、歴史を読み解く方法の訓練を中心に行う。受講生がそこから何らかの問題点を発見し、それに対して自ら解答を見出していくための方法を修得することを目的とする。</p> <p>本授業はゼミ形式（対面）で行う。受講生に、地形図や空中写真などを用いた研究論文のなかから自らの興味・関心にもとづき論文を選んでもらい、論文内容についての報告を行ってもらう。</p> <p>大学での研究においては、研究論文の検索（図書館利用含む）や読解が重要な作業となる。また、ゼミにおける報告のための準備、プレゼンテーション、討論などの方法の習得も必須である。本授業における報告準備や報告などを通じて、これらの技能を熟知してもらう。このほかにも随時、古地図や古文書などを用いた方法についても説明していく予定である。</p>
		畠山 聡	地域の歴史を解明するための基礎演習	<p>本授業は、原則として大学での対面授業を実施しますが、代替授業はTeams によるオンデマンド型授業を予定しています。</p> <p>日本のムラの多くは、その起源をたどれば中世にまでさかのぼることができます。ムラの家・屋敷や寺社だけでなく、道路や田畠の姿、用水路のあり方、さらには山野や森・林の佇まいに至るまでもが、永年にわたる住人の営為により形成されてきたものです。また、地域に伝わる年中行事や郷土芸能、伝承なども、住人の営為と深く関わっています。これらは一般的に文化財と呼ばれていますが、地域の歴史を解明するためには、これらを収集し、分析する必要があります。</p> <p>本授業では、地域の歴史を解明する上で必要な文化財の調査・分析に関する基礎的な知識と手法を修得するとともに、調査・分析で得た情報を、どう整理して発信していくのか、といった方法・技術を会得できるような内容としていきたい。</p>